



# 奈良県農業研究開発センター ニュース

2022

6

vol.162

## 新しい小麦の奨励品種‘はるみずき’

### ～パンに適した強力系小麦～

パンへの加工に適した強力系小麦品種の需要が高まっていることから品種の探索を行ったところ、‘はるみずき’（農研機構育成）が奈良県での栽培適性が高く、パンへの加工適性も高いことが分かりました。本品種は2021年10月に奈良県の奨励品種に指定されました。

#### 1. 背景と目的

奈良県では、学校給食における地場産物及び県内製造品を活用している割合を19.0%（2016年）から増加させる目標を設定しています。

現在、奈良県の学校給食用のパンには、奈良県産の中力系小麦品種‘ふくはるか’が10%ブレンドされた小麦粉が利用されています。この‘ふくはるか’はパンへの加工適性が低いため、ブレンド割合を高めるには、パンへの加工適性の高い強力系小麦を利用する必要があります。そこで、奈良県での栽培に適した新たな強力系小麦品種を探索しました。

#### 2. 研究成果の概要

強力系小麦品種4種と‘ふくはるか’について、センター内の水田転換畑で2018年産から2021年産にかけて品種比較を行いました。その結果、‘はるみずき’は‘ふくはるか’より成熟期が早く、収量は同程度、タンパク質含有率は高いという結果が得られ、最も有望であることが分かりました（表）。また、2021年産で実施した‘はるみずき’の現地栽培試験でも、所内栽培試験と同様の結果が得られ、県内での栽培適性を有していることが分かりました（図）。

‘はるみずき’のパンへの加工適性は、パン用として利用される外国産の代表的な小麦銘柄である1CWと同等以上の高い評価が得られました。

以上の結果が得られたことから、‘はるみずき’は2021年10月に奈良県の奨励品種に指定されました。

表 奈良県での‘はるみずき’の品種特性

	成熟期 (月 / 日)	収量 (kg/a)	タンパク質含有率 (%)
はるみずき	6/1	61.4	12.7
ふくはるか	6/2	59.5	11.5

数値は2018年産～2021年産の平均値

#### 3. 今後の取り組み

‘はるみずき’の栽培は、2023年の秋から本格的に開始される予定です。それまでの期間は現地試作を行い、県内の製粉会社を通じて実需者へ‘はるみずき’を周知する予定です。

また、高品質な‘はるみずき’の安定生産に向けた、施肥体系や播種時期、播種量等を調査し、栽培マニュアルを作成します。



図 現地栽培試験中の‘はるみずき’

(育種科 松山 俊介)